

成果の説明書

(氏名) 水口剛	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース 環境省が事務局を務める ESG 金融ハイレベルパネルの下にポジティブインパクトファイナンスタスクフォースが設置され、座長を務めた。2020年7月には最初の成果として、報告書『インパクトファイナンスの基本的考え方』を公表した。</p> <p>(2) インパクト投資勉強会 金融庁と GSG 国内諮問委員会が共催でインパクト投資勉強会を設置し、座長を務めた。主要投資家、金融機関等から 35名の委員が参加し、インパクト投資の国際的動向等について意見交換した。</p> <p>(3) 運用機関と NGO による協働プロジェクト 昨年度に引き続き NGO の連合体である CSR レビューフォーラムとある機関投資家（運用機関）との協働プロジェクトに取り組んだ。機関投資家が ESG 投資に取り組むにあたり、NGO の知見を活用する先進的な試みである。</p> <p>(4) S 指標研究会 連合総研および QUICK ESG 研究所が共催する「S」指標研究会で座長を務め、ESG 投資における「S」の指標のあり方について研究した。成果は 2021 年度に公表の予定である。</p> <p>(5) 投資家のサステナビリティ選好調査 SMBC（三井住友銀行）の協力で、同行を通じて iDeCo（個人向け確定拠出年金）に加入している加入者向けアンケートを実施し、ESG 投資を選択する個人のサステナビリティ選好について調査を行った。その成果は 2021 年度に異文化経営学会にて発表する予定である。</p> <p>(6) 執筆 ➤ 「ESG 投資の進化と統合報告」『会計』2021 年 1 月号 ➤ 「環境インパクトファイナンスの可能性－金融の行動原理の革新に向けて」『月刊金融ジャーナル』2020 年 10 月号</p> <p>(7) 学会発表 日本会計研究学会第 79 回大会（2020 年 6 月 5 日（土）・6 日（日）、オンライン開催）の初日の統一論題において、「ESG 投資の進化と統合報告」と題して報告した。 日本 NPO 学会第 22 回年次大会（2020 年 11 月 21 日（土）・22 日（日）、オンライン開催）の初日、「NPO と投資家の連携」と題して報告した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>2020 年度も引き続き、副学長として理事会・教育研究審議会等への参加、ラジオゼミナールの企画、あすなろの運営支援、学生ボランティア活動支援室の運営等を行った。また、本学における地域貢献、社会貢献の活動を取りまとめて対外的に発信する『地域・社会貢献白書』の第 3 号を発行した。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

2021年度から学長に就任するため、本学全体の適切な運営に注力したい。特に新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつも無事に対面授業を再開すること、2022年度の大学評価に向けた準備と次期中期計画策定に向けた準備を開始すること、新たにサステナビリティ委員会を設置することなどを旨とする。他方、金融庁のサステナブルファイナンス有識者会議をはじめ、前年度から継続している研究活動・社会活動について引き続き取り組んでいきたい。研究面では、サステナビリティ選好、「S」指標、インパクト投資の研究を継続する。